

## 資源と技術の 地球規模での発展

一東洋のゴールド女王の国一

幼いセイレンジャーの登場で、人間界の西洋で金属製錬の技術が進歩 しているころ、カッパー将軍は、東洋の小島みたいな国(=日本)では、 いたるところでゴールド女王の分身を使った家や装飾品がキラキラと 輝いている、という噂を聞いた。亜鉛などは



「伝聞だよ。そんな話はオーバーに伝わるからね」

と言っていたが、

カッパー将軍は、 いつか確認できるといいな

と思っていた。

しばらくするとその国に実際に訪れる者たちも出てきたが、人によって 「目にまばゆいばかりだった」「我々が今まで見てきた他の国と一緒だった」 などと、感想が定まらない状態だったので、カッパー将軍は自ら細かな 調査を行ったところ、

> 「間違いなく我々の仲間が結構いるようだ。 しかも、ゴールド女王様だけでなく、 シルバー王子の価値も高いらしい学し

> > ということがわかった

それを聞いた錫は

「ほー、それはいいね。もしかしたら西方では評価されていない」 我々のような元素も評価が高いかもしれない。」

と嬉しくなってきた。

「シルバー王子が通貨の基準にされているようだよ。もちろんカッパー 将軍も重宝されている。この国は長い間、我々の仲間どころか鉄王国 の鉄も見つけられず、近くの国から持ってきていたらしい。だから、 カッパー将軍の分身である銅を発見したときは、それを祝って、新し いコインができたほどだし

とさらに詳しい情報を皆に伝えた。



そのときのコインの写真がこれだね



とカッパー将軍は『和同開珎』と書かれた写真を取り出した。

カッパー将軍の分身である銅の発見に加え、近くの国から鉄王国 の鉄を取り出す技術を持った人間がやってくると、この国はあっ

という間に、鉄の仲間を作り上げ、非鉄金 属の分身も次々に見つけていった。そして いつしかゴールド女王の国(黄金の国)と いわれるようになっていった。

> この国は神様として人間の形をした像を大事にしていたようだ。 像の表面にゴールド女王様を塗った(メッキ)のだが、そのとき に私を利用したのさ(第1話後編参照)。ほらこんなだよ。長い時間 が経つと、だんだんと金が剥げてくるんだが、この国の人間はそれ もかっこよく思って、そのままにしているみたいだ。

と水銀は、金色に輝く銅像を指さした。

ゴールド女王の国と言われるようになったこの国は、 我々を見つけるのは下手だったが、目標が見つかると 詳しく追及する性格の人間が多いのかもしれないな



それに鉄王国の維持には大量のエネルギーが必要なので 木炭の原料になる森林が多いこの国には適していたようだね

というシルバー王子とカッパー将軍の話を聞いていた鉛は、



古くから文明を起こした国のなかには、エネルギー源の森林を食いつぶし、 砂漠になっているところも多いけど、この国はちょっと違うようだね」

と言った。

大気に水分を多く含み、雨が一定量降るために、植物がよく 育つので木を切り倒しても一定期間経つと回復する。つまり、 いつまでもエネルギー源になる木がある幸せな国のようだ



それに、ある時期から鉄を他国に出して、そのかわりに書物などを 得ることができたために特異な文化ができたとも言われているよ。

皆が語るように、ゴールド女王の国と言われるこの国は、自然条件など いろいろな面で恵まれていたが、西洋と同じでやはり戦い好きだった。



「ある時期、自分の勢力を拡大しようと人間同士の戦いが活発に行われ、 そのための武器を作るために、我々の仲間を探していたらしい

というカッパー将軍に

戦いの武器を作るために、技術が進歩するということは気に 入らないが、所詮人間のレベルではそんなものだよ

と水銀はため息をついた。

## 南蛮吹きの登場で分離の精度アップ

戦いの武器を作るために、技術が進歩したとはいえ、まだまだこの国の技術は、 外国と比べ遅れていた。

鉄や非鉄金属の発見や抽出に遅れていた国だから、ひとつの鉱石からカッパー将軍とゴールド女王様、シルバー王子とを分けることも上手じゃなかったとのことだ

近くの国はそれを もってきて後で、カッ パー将軍とゴールド 女王様、シルバー王 子を分けて大きな利 益を得ていた

と水銀も付け加えた。 しかし、



それに気づいた人間がいて、鉛である私を利用してゴールド女王様とシルバー 王子をうまく分ける方法を覚えた。 それを"南蛮吹き"といったんだ。(※)

と鉛は自分の功績を皆に伝えた。

分離の精度もアップしたゴールド女王の国といわれた国は、唯一西洋の小さな海洋王国(オランダ)を除き、外国とは取引をしない時期があった(鎖国)。



小さな海洋王国の目的は、シルバー王子だったらしいね

という水銀に

分離の精度がアップしたとはいえ、まだまだ技術が未熟でシルバー 王子の中にゴールド女王様が入っていたんだ。海洋王国は自国できれいに分離して、ゴールド女王様を得るのが本当の目的だったんだ

と鉛は答えた。

この話に、

ゴールド女王の国といわれた国では一時期、世界で一番 私の分身である銀を作っていたようだよ。カッパー将軍の 分身である銅も一時期は世界一の生産量だったらしいよ

とシルバー王子は語った。

それにしてもよく西洋の人間に占領されなかったものだね。アメリカが新大陸とかいわれていたところは、船でたどり着いたわずかな人間で、それまで栄えていた王国を滅ぼして、沢山あったゴールド女王やシルバー王子を持ち帰ったそうだ

という亜鉛に、

たぶん西洋の人間には東洋の国はあまりにも遠かったんだよ。それにゴールド女王の国といわれた国では戦いが盛んで、鉄砲などの武器をたくさん持った戦い専門の人間が多かっため、征服するのは 大変だと思ったんだと思うよ

と錫が答えた。

いずれにしても世界は広いし、一様に 文明が広がることはないのだなあ

亜鉛と錫の話を聞いていた カッパー将軍はしみじみと語った。

(※)銅は銀や金と相性が良く、しばしば鉱石中に同時に存在している。しかし、南蛮吹きが登場するまでは鉱石中の銅銀金を上手く分離させることができず、「銅」としてアジア各国に輸出された金属の中に銀や金が含まれていたため、輸入した国々ではそれを再度溶解、分離し、金や銀を得ていた。

29

30